

海老名市立東柏ヶ谷小学校 学校運営協議会 議事録
(令和8年度 第1回)

- 1 日時 令和8年4月21日(火) 13:15～
- 2 場所 海老名市立東柏ヶ谷小学校 ランチルーム
- 3 出席委員 芳賀敬子委員長、坂本佳菜副委員長、古田守一委員、増田英樹委員、松下徹委員、青山廣文委員、小池一美委員、柳下泰介委員、瀬戸口壮委員、守谷美子委員、海野望委員、牛腸あきな委員、奥田五成校長

4 会議の内容

(1) はじめに(芳賀先生を委員長に選出)

芳賀委員長：今年度も委員長を務めさせていただく。学校運営協議会は大きく2つの役割があると考えている。1つ目は学校が地域の方へ学校運営方針を説明し、承認をしていく。2つ目は地域の子どもたちをどのように育てていきたいか話し合っていくことである。今年度も引き続き、お力を貸していただきたい。よろしくお願いいたします。

(2) 授業見学

出席委員並びに本校教職員を2グループに分け、授業見学を実施。

(3) 新体カテスト大会について

新体カテスト大会の実施計画

関岡教諭：5月20日に新体カテスト大会を実施する。今年度も1～6年生を1グループ15人程度の計24グループの縦割りで実施する。雨天時もソフトボール投げ以外全て実施する。

芳賀委員長：学校ボランティア協力の運営方針について、学校運営を円滑に回すよう話をしている。

(4) 学校長より

・令和8年度 東柏ヶ谷小学校のグラウンドデザインと学校経営方針

奥田校長：東柏ヶ谷小学校のグラウンドデザインでは、学校経営の基本として心を広げ未来に生きる力を育む方針が継続されている。昨年度、承認された学校経営の中心に子ども同士・教師と子ども・教師同士・子どもと保護者の対話を据えて推進されている。授業場面で子ども同士の対話が観察された。笑顔あふれる明るい学校スローガンの継続。地域・教師・保護者との多様な対話を重視する。スローガン「笑顔あふれる明るい学校」

は 50 周年時に子どもたちが考えたもので、今年度も継続して掲げる。子どもたちにスローガンが定着しているため、引き続き推進する。目指す学校像「学びいっぱい、やさしさいっぱい、元気いっぱい」一人ひとりを大切にする学校をメインに掲げている。人と人とのつながり、心通い合う学校、地域から愛され信頼される学校を重視し、地域との連携を大切にしている。子どもたちに定着したスローガンは学び合う子、高め合う子を目指すものである。子どもたちが元気いっばいに過ごす願いが込められている。温かく丁寧に根気強く寄り添うことをキーワードとして掲げている。家庭と地域とのつながりを重視し、地域に愛着を持ち主体的に行動できる児童を育てるスローガンを設定している。顔の見える関係の構築を大事にしていく。学校運営協議会、PTA、応援団、学区連絡協議会とのつながりを大切に、地域と共にある学校を目指す。

OA グループの学校づくりと教育課程

A グループは特色ある学校づくり、教育課程、地域連携を担い、山形総括教諭が中心となって進めている。挨拶の推進と感謝の気持ちの形成を重視している。社会に開かれた教育課程を毎年更新し、今年度も 4 月から見直しを持って進めている。コミュニティスクールの充実を図り、キャリア教育の推進などの手立てで実現している。体験学習を地域の協力で毎年充実させ、昔遊びや栽培体験を実施している。地域学校協働活動として毎年恒例のグラウンドゴルフ大会を開催している。親子パトロールを柳下さんと一緒に進めている。

OB グループの校内研究研修と授業力向上

B グループは校内研究研修グループで、授業改善、読書教育、ICT に取り組む。小久保総括教諭が中心となってグループを進めている。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を本校で推進する。個別最適な学びと協働学習を重視している。国語科校内研究と海老名市教育委員会「ひびきあう教育」研究指定校となっている本校は今年度で国語科校内研究の 4 年目であり、海老名市のひびきあう教育活動の発表校に指定されている。1 月末に市内教員、教育委員会、大学教授が授業参観し、授業改善に向けた取り組みを発表する予定である。研究手立てとして校内研究の取り組みと「言葉の力」を重点に掲げ、進めている。学び合い活動の充実を図る。ICT タブレットの効果的な活用を教育取り組みとして継続する。

OC グループの児童理解支援と誰一人取り残さない教育の推進

教育支援コーディネーターの山下総括教諭が中心となってグループを進めている。そだちの教室、「コスモス級」が今年度新設された。この教室ではコミュニケーションと人間関係を中心に取り組みを進めていく。本校で約 20 名の児童が学習を希望し申請中である。面談を実施しなが

ら準備を進め、5月上旬から中旬頃に授業を開始予定である。また、個別学習室のスマイルルームを設け、誰一人取り残さない学びの場を充実させる。ひまわりルームでは教室に入りにくい児童や大勢の場が苦手な児童に対応している。全職員で全児童を育てる「インクルタイム」は昨年度開始され、今年度も、みんなで見つめるスタイルを進めている。

OD グループの健康安全体育教育

グループのテーマは「元気いっぱいの心と体、心と体の健康促進」である。神村総括教諭がこのグループを担当している。安心安全で居心地の良い学校環境整備と安全教育の充実を図る。学校の体力向上と食育・安全教育の手立て、体育授業、運動会、新体力テストで体力向上を図る。基本的な生活習慣の指導を実施する。安全教育として避難訓練や消火訓練を今年度も行う。今年度も新体力テスト大会や運動会に向けた準備等でもお世話になります。どうぞよろしく願いいたします。

芳賀委員長： 本校のグランドデザインと市の方針の関係性について市の方針により各校にそだちの教室が設置され、本年度は本校で開設された。本校のそだちの教室には本校の子どもたちのみが参加し、他校からの参加予定はない。

高橋典嗣委員： 学校での笑顔と愛着の向上について
子どもたちの笑顔が本当に増えた。子どもたちが育てる優しい心を持ってくれた。愛着を主体的に行動している。個人的な先生の感性ではなくデータで評価するとよい。
以上の話を踏まえて、東柏ヶ谷小学校のグラウンドデザインと学校経営方針について、委員の皆様承認していただいた。

(5) 今年度の校内研究について

小久保教諭： 喜びをみんなで考え伝え合う研究が4年目を迎える。昨年度の成果と課題、今年度の取り組みを説明する。成果の一つ目は「物語文のメガネ」の活用計画である。「物語文のメガネ」の活用を開始して4年目となる「物語文のメガネ」は国語の物語文学習時に押さえるべき項目を意識させるための資料である。読みの足場を整える授業の補助として活用されている。物語文の学習では作者の人物像、表現の特徴、登場人物などの項目を扱う。学年が上がるにつれて項目が増え、全学年で登場人物と物語の時代を押さえる。今年度で4年目であるが、年度末の職員アンケートを実施した際には、「物語文のメガネ」の活用率が100パーセントに達した。指導者側が教材研究として有効性を高く感じている。また、児童のアンケートで視点を意識した読書が増加傾向にある。記述ノートには具体的な理由をどこのページ、何行目に書いてあるかを根拠に語り合う姿が見られた。ノートや掲示物を基に自分の考えを整理したり友だち

と考えを比較したりできるようになった児童が増加した。友だちとの交流時間を多く確保した結果、自分の考えに自信を持ったり、より良い考えに修正したりする児童が多く見られた。低学年では「なるほど、確かに」と理解を示しながら簡単に自分の考えを伝えられるようになった。研究テーマ「考えて伝える」「伝え合う」を児童と教師が意識している。授業1時間で、伝達の最適なタイミングとより良い手立てを探っている。考えの伝え合いや見回りで満足せず、テーマの先の考えを広げ深める手立てを今年度研究で深める。今年度、東柏ヶ谷小は「ひびきあい」の発表が予定されている。一月末に低学年・中学年・高学年が国語科の授業を公開する。淑徳大学の青山教授から引き続き指導を受け、講義を聞く。一月末発表の報告を来年八月に行う。

(6) 地域連携の1年間の予定について

関教頭： 校長の説明したデザインとプログラムを基に全校児童が地域住民と関わる教育活動を実施している。1年生から6年生までの全児童が教育活動を通じて地域との顔の見える関係構築を重視している。地域の方、保護者、学校の先生、講師、学校支援ボランティアの協力を得て活動を進め、検討しながら継続している。

柳下泰介委員： ○防災教育について

社会に開かれた教育課程の一環として防災教育の説明が行われた。長野の町で震度5、東北で震度6の地震が発生した。NHKは約6時間にわたり地震報道を続けた。去年10月17日に自治会会長向けに広島県金田地区の大久保氏による防災講話が行われた。金田地区の小学校では6年生を対象に防災に関する総合教育の一環として授業を実施している。防災教室の継続拡大と校区実施相談小学校の防災教室が継続的に増え続けている。校区での防災教室実施を希望し、最適な方法を質問したところ、率先して取り組むようご指摘された。東柏ヶ谷小学校防災キッズ導入提案前に教育委員会に相談し、東柏ヶ谷小学校防災キッズの創設を提案した資料を配付した。広島では2時間の学習で防災キッズ、3時間の学習でプラチナ防災キッズの賞が得られる仕組みが実施されている。神奈川県内では防災キッズが一つも存在しない。6年生防災教育の打ち合わせを校長から提案を受け、6年生担当と時間配分などの打ち合わせを行う。危険箇所もあり、各地区の防災士が不足している。市が支援条例を制定し、各地区で年1人程度の防災士育成を計画中である。内容は先生方と相談して決定する。6年生担任を交えて具体的な進め方を検討する。

(7) 年間予定について

山形総括教諭： 学校行事スケジュールの説明。連合運動会の時期変更、終業式の日まで給食が続くことなど前年度からの変更を含め、説明。

(8) 東柏ヶ谷小学校区親子パトロール報告について

柳下泰介委員： 防犯パトロール隊の立ち上げを行った。親子パトロールの3年契約達成と親子パトロール3年契約を完了した。親子パトロールは令和5年8月に立ち上げられた。自治連会長就任により防犯協会副会長を4年間務め、市長が会長である。大谷の2700世帯で防犯パトロール支援を実施していた。自治会集約と資金提案の議論4つの自治会を集めると世帯数が1400から2500になるという質問に対し、その通りと回答した。その上で世帯数の500の規模で作ってほしいという提案があった。資金面の打ち合わせを行い、何とか対応した。当時、奥田校長は教頭だった。防犯パトロール部の立ち上げと事例紹介校の校長と話して防犯パトロール部を立ち上げた。最初はJ-COMの取材とタウンニュース掲載で派手に開始した。自治会や自治連で評判になり、全体会で事例紹介を依頼された。事例紹介を行い、参加者が自らの地域で実施を望んだ。公安協会の実績報告書返却と学校保管依頼三年間の契約に基づく公安協会の実績報告書が作成された。令和七年度の報告書は先週の月曜日に公安協会から返却された。報告書を校長に渡し、学校で保管することを依頼した。初めてビブスを着たチームの写真を差し上げた。次にどの地区が立ち上がるかは不明である。防災意識の向上と子どもたちの安全確保が使命であり、協力を依頼する。学校パトロール活動の地域協力と予算報告地域コミュニティの形成を皆さんに依頼している。パトロールについて質問や意見を求めている。

(9) 教職員の紹介

関教頭： 離退任者の紹介と出席している教職員のほか、低学年担当の教職員による自己紹介

(10) 授業見学の感想

各グループより授業見学をした時の感想などを話し合った。各グループに属していた教職員がそれぞれのグループでの話題を全体で伝達した。

(11) その他

関教頭： 年度初めの学習支援の報告と海老名市のコミュニティスクール研修会の連絡をした。

芳賀委員長： たくさんの手があるのは、良いことであり、応援団の方を中心とした協力があり、助かっている。

芳賀委員長： ○屋上菜園について

校庭が狭いため子どもたちの土に触れさせるために校舎建設時に屋上菜園が設置された。四十周年時に補強されたが、現在は先生方だけでは維持が難しく、コロナ禍もあって継続されていない。地域との連携による学校課題解決学校運営が苦勞な状況にあるため、地域住民と協力して取り組みを進めたいと考えている。三上さんが中心となった綾瀬地区の会が近くで活動している。興味のある地域住民が参加すれば、子どもたちへの対応が進む可能性がある。皆さんに知ってもらい、協力の機会を広げたいと思っている。

(12) おわりに

坂本副委員長： 課題解決に向け前進し、情報共有しながら良い方向へ努力する意向が示された。令和8年度PTA会長の紹介が行われた。

牛腸PTA会長： 学校にはいつもご支援いただいておりますので、少しでも恩返しができたらと思ひまして、この度会長の方を引き受けました。経験が少ない中ですが、どうぞよろしくお願ひします。